

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170500021		
法人名	社会福祉法人 鶴丸会		
事業所名	グループホーム・ユートピア		
所在地	伊万里市大川町大川野字赤坂1647番地		
自己評価作成日	平成29年11月3日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成29年11月20日	外部評価確定日	平成29年12月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>【理念】 ありのままに 穏やかに ゆっくりと楽しく自由に 残された力で 暮らしの喜びと自由を 地域の方達との交流</p> <p>【スローガン】 笑顔と絆 咲かせよう笑顔の輪 深めよう地域の絆</p> <ul style="list-style-type: none">・利用者様一人一人が持っている力を活かして、その方らしい生活ができる事を目標に支援しています。・地域の方達との交流を大事にし、地域で見守っていただき、利用者様達が安心して生活されるように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>伊万里市の東部、山や川の自然に囲まれた農村風景が広がるのどかな町である大川町に建つホームである。平成16年、地域住民からの要望で医療や認知症ケアの専門知識を持つ母体法人が開設した。地域に望まれて開設した経緯があるため、運営や利用者支援に地域の協力が得やすく、事業所の質の向上にもつながっている。隣接して居宅・通所・訪問の介護支援事業所があり、在宅介護支援センターは地域住民の相談窓口となっており、利用の問い合わせの他、認知症ケアや対応の相談・質問を受けている。利用者のほとんどが、この静かな梨の里で生活されてきており、入居後もその継続が保たれているため地域住民も訪れやすく、地域の集会所のような事業所となっている。医療や認知症介護の専門知識を持った事業所の中で、入居前の生活の関係継続が支援されているホームである。</p>
--

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関に表示しており、職員一人一人が認識し、日々のケアの中で実践している。「地域と絆」を謳ったスローガンは毎週月曜日に職員で唱和している。		利用者がありのままにその人らしく生活するのを支えるという理念のもと、地域との絆を大切にされた支援を心がけている。週1回のスローガン唱和や日々の生活を通して、職員は常に理念を意識しながら支援にあたっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小・中学校や町の行事への参加等摂食的に行っている。夜間想定での避難訓練や当事業所で催す収穫祭等の行事に地域の方達に参加して頂いている。施設広報紙を区の全世帯へ配布している。		地域住民の要望から開設した事業所である経緯から、地域とのつながり・協力関係は深い。地域の夏まつりにかき氷の屋台を出したり、事業所の敬老会やクリスマス会・収穫祭には子供を含めた地域住民を招待している。また、ホームの菜園は、種まきから手入れ・収穫まで地域の方々の協力によって成り立っているなど、地域と事業所のつながりは深い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に地区の区長様や民生委員様に参加して頂いており、夜間想定での避難訓練に地区住民や消防団の方にも参加して頂いている。		/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月ごとに開催し、地域の住民や消防団、入居者の家族様にも多数参加頂いている。運営推進会議で出された意見を元にサービスの向上に努めている。		運営推進会議は行政職員や地域住民・消防団員・警察官・家族などの参加で年6回、定期的で開催されている。活発な意見交換や情報交換がなされており、事業所と地域とがより一層理解を深める場となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者が、運営推進会議のメンバーである為。意見を聞いたり相談事にも応じて頂けたりと連携は取れている。		行政担当者が運営推進会議の委員であり、普段から連絡を取り合い協力関係を築いている。利用者やホームの実情・課題・空き状況などの事業所情報を伝えており、行政と連携を保っている。併設の居宅介護支援事業所は、市の委託事業の在宅介護支援センター業務を受けており、地域の相談窓口となっている。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の必要性がある利用者様がいる時には身体拘束委員会で毎月話し合いを行っていたが、現在は無い。玄関の施錠時間を決め、決められた時間以外は開錠している。		契約時、家族や本人に事業所の方針として身体拘束をしない支援に取り組んでいることを説明している。経営母体の法人内で毎年身体拘束に関する研修を受け、身体的・精神的苦痛の無い支援に努めている。身体拘束委員会があり、必要に合わせて機能させている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月のミーティング、毎日の申し送り時や、日々のケアの中でも話し合いを行っている。事業所内で虐待防止の研修を行っている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員一人一人が学ぶ意識を持ち、今後研修等にも参加を予定している。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居申し込みの際、十分な説明を行い、施設見学をして頂き、契約を行って頂いている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。家族様来訪時には、普段の様子をお伝えし、家族様の意向を聞くように心がけている。		管理者や担当職員は、利用者や家族とよく話し意見や要望の把握に努めている。利用者の多くは近隣住民であることから家族の面会は多いが、電話を活用しての連絡も行っている。目薬の時間や入浴方法など、その人に合った時間変更や気持ちに沿った支援につなげている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に2度施設長、管理者を交えた面談を行っている。毎月のミーティングにて職員の意見を聞いている。		管理者は職員の意見や要望に耳を傾け、運営に反映させる姿勢を持っている。管理者と職員は普段からよく話し、毎月の会議時や年1回の面談と合わせて意見や提案を聞いている。毎日出勤時に必ず一読する「連絡事項」に、皆に伝えたいことを何でも書き込み、運営に活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得や、各研修への参加を促している。				
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1度の施設内勉強会や、法人内の研修等にも参加している。				
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国認知症グループホーム協会佐賀県支部に加入し、他のグループホームとの交流を持つ事でサービスの質の向上を目指している。				

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様一人一人の話を傾聴し、安心感を与えるような声かけを心がけている。				
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期面接時には、なるべく詳しい本人様も情報を聴取し、家族様の意向をくみ取るように留意している。				
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様、家族様の意向を重視し、サービスの検討を行っている。				
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の介護の中で、これまでやってきた事を思い出すような声かけを行いながら、一緒にできる事を行うように心がけている。				

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事を行う時は案内の文書を郵送し、家族様にできる支援をお願いしたりしている。				
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	デイサービスの行事に参加して昔馴染みの人と話をしたり、受診やドライブ時には自宅の近くを通ったりしている。		隣接デイサービス利用者に顔なじみの知人が多く、話がはずむことも多い。利用者の要望で自宅を見に行ったり買い物に出掛けたりしている。縫物が得意な人に裁縫道具を用意して繕いものをしていただいたり、お米とぎが好きなのにも手伝ってもらうなど、利用者一人ひとりに合った支援に結び付けている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の中で、職員が間に入りながら良好なコミュニケーションが取れるように支援している。				
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院・退去の場合は、病院訪問時に面会に行ったり、連携室から情報を得たりしている。町内で家族様に会った際には様子を伺っている。				

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常の会話の中で、本人様の思いや、今やりたい事等を聞いて、できる範囲で実践している。訴えのない利用者様の場合は、家族様に本人様の好きだった事、得意だった事等を聞き取り、できる範囲で実践している。		担当職員制をとっており、利用者の思いや意向の把握に努めている。発語が少ない人でも表情を観察して推察し、その人の気持ちに沿った支援につなげている。職員の交代などで、利用者一人ひとりの思いの引き継ぎ情報にあやふやな面があり、今後は記録として残して支援に活かしていこうと検討中である。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様には入居時に十分聞き取りを行い、意思疎通ができる利用者様には入居時は勿論、入居後も日常の会話の中で聞き取りを行っている。				

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の「できる」を重視し、一人一人の状態に合わせた支援を心がけている。				
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様、家族様の意向や、毎朝の申し送り時や会議等の際に確認した本人様の状態にを把握し、本人様にとって必要なケアのを考えて計画を作成している。		利用者の様子や家族の思い、受診時の医師の意見も取り入れて介護計画が立てられている。介護計画書には課題や援助目標・援助内容が具体的に書かれている。日々の評価やモニタリング内容がより分かりやすく見やすい様式に整理を検討中である。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録を共有し、職員間で申し送りを十分に行いながら実践できている。				
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所内や法人内の施設と連携を図り、柔軟な支援ができるように取り組んでいる。				
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内行事の見学へ出向いたり、避難訓練に地域の方に参加してもらったりした時に、地域の方達との交流ができるように支援している。				
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診及び突発的な受診は職員が対応し、家族様へ報告を行っている。利用者様一人一人のかかりつけ医との連携もできている。		契約時に十分説明し、話し合っている。利用者や家族の意向を大切にしており、事業所の協力医への受診変更の他、入居前からのかかりつけ医の継続受診を支援している。通院は職員の送迎を基本としている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が常勤で勤務し、利用者様一人一人の状態を把握しており、適切な受診等の対応ができています。介護職員は看護師に気づきや心配な事を相談できています。				
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には文書で情報を提供し、入院中の状態、退院時の情報も病院連携室を通じて連携取れている。				
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方については、家族様の意向を十分尊重し、話し合いを重ね、本人様、家族様が納得して最期が迎えられるように支援している。		重度化や終末期に関する指針が有り、契約時に本人及び家族に説明し同意を得ている。入院や重度化に合わせて話し合う体制もできている。これまでに看取り経験もある。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応についてマニュアル作成し、職員がいつでも見れるようにしている。また、事業所内で緊急時の対応の研修を行っている。				
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な事業所での訓練の実施と、地域住民や消防団員にも参加していただき、夜間想定での避難訓練を実施している。		消火・通報・避難訓練は、利用者や地域住民・消防団員も参加して行われている。職員は消火器やAEDを使用できる。災害に備えて水と食料を備蓄している。夜間災害に備え、暗さを実感するために実際の夜間に職員だけでも訓練できないか検討中である。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援							
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の扱いについては入居時に本人様、家族様の承諾を得て公表している。利用者様には敬意を持って接し、さりげなくトイレ誘導して他者にわからないようにする等の配慮を職員一人一人が行っている。			職員は利用者本人の人格を尊重した言葉かけや口調を心がけている。名前を呼ぶ時は、一人ひとりその人が好む呼び方をするように気をつけている。個人情報を使用する目的や使用条件を明確にし、契約時に説明をして同意を得ている。写真の取り扱いには慎重にし管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は、日常の会話の中で利用者様の思いを汲み取れるような声かけを心がけている。				
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先ではなく、利用者様のペースで生活できるように努めている。				
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や気温に応じた衣類や清潔感にも気を配った支援を行っている。				
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様一人一人の食べやすい形態での食事を提供している。施設内の畑で採れた野菜を食材に使用する事もあり、利用者様と一緒に収穫する事もある。料理が好きな利用者様には一緒に準備をしていただく時もある。			昼食と夕食の献立・食事は隣接のデイ事業所のサービスを利用しているが、ホームで刻みやおにぎりにするなど利用者に合わせて形状にして提供している。朝と休日はホームで作っており、職員は利用者の好みを把握してメニューに活かしている。事業所の菜園で採れた野菜もメニューに活用されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様一人一人の食事摂取量や水分摂取量の観察と、状態に応じた支援を行っている。減塩食等の食事対応も行っている。				

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	年1回歯科医の検診を受け、一人一人に合った口腔ケアの仕方の指導を受けて、そのように実施している。毎食後口腔ケアを本人様が出来る範囲で行っていただき、出来ない所は職員が行っている。				
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を用いて利用者様一人一人の排泄パターンの把握を行い、昼夜共に排泄誘導を行っている。		利用者一人ひとりに合わせた排泄の自立支援を心がけ、トイレで排泄できるように支援している。職員の見守りで、立ち上がりができ、オムツ使用からパッド使用になった利用者もいる。尿意を感じられるようになった人も多く、布パンツ使用者もいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や腹部マッサージ、適度な運動等便秘予防に配慮している。				
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	時間帯の希望に応じる事は難しいが、週3回の入浴を目安に、利用者様の状態に応じた入浴の支援を行っている。		入浴は週3回が基本である。介助者見守りの個浴であるが、一人でゆっくり入浴することも可能である。シャワー浴の場合もある。入浴しない時でも下着交換がなされ、清潔に配慮されている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様が気持ち良く眠れるように、居室の温度調節や採光等にも気を配っている。				
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常に一番新しい薬情をファイルして職員全員で共有し、利用者様一人一人の状態把握を心がけている。				

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホーム内で過ごすばかりではなく、散歩やドライブ等なるだけ外へ出かけて気分転換できるように支援している。また、洗濯物たみや新聞折等利用者様に合った役割を担っていただいている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様の希望に沿った外出支援を心がけ、天候や利用者様の体調をみて外出を行う事が多い。家族様に協力していただき、外出支援も行っている。		のどかな環境にある事業所敷地は広く、菜園もあり、自由に散歩したり日光浴するのに適している。居間に面して広いウッドデッキがあり、お茶やおやつを食べてのんびり過ごしたり、日光浴などに活用されている。気候の良い日は近隣散歩をしたり、ドライブや買い物に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つ事の大切さは理解しているが、管理、支払い等は職員が行っている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様が希望された時にはいつでも支援できる体制を取っている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間の湿度や採光等に気を配り、壁面には季節が感じられるような飾りつけをしている。家具の配置等も利用者様も行動の妨げにならないように配慮している。		ホーム内は淡い色調に統一され、広く明るくゆったり落ち着いた雰囲気である。掃除の時には窓を開けて換気を心がけ、エアコンと加湿器で温度・湿度を管理している。居間兼食堂は床暖房がなされており、心地よい暖かさである。居間にはソファやイスがあり、利用者はそれぞれのお気に入りの場所でくつろいでいる。不快な臭いが発生しないように、汚物や生ごみの処理は素早く行うように気をつけている。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間には一人になれるスペースはないので、一人になりたい時には居室に行かれている。				
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドとタンスは備え付けられている。入居時に本人様馴染みの物は何でも持ち込んで良い事を説明し、持ってきていただくようにしている。担当職員を決めて居室内の飾り等行っている。		居室はフローリングで明るく、窓から見える景色も良い。洗面台付きでお湯も出る。壁には写真や絵、手芸作品などが飾られ、その人らしい居室づくりがされている。職員と一緒に利用者も手伝って居室内掃除をしており、きれいに片付いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物の構造を活かし、排泄が自立されている方の居室はトイレの近くにする等、「できること」を活かして行けるように支援している。				

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
↓該当するものに○印をつけてください				
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○		1. ほぼ全ての利用者の
				2. 利用者の2/3くらいの
				3. 利用者の1/3くらいの
				4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○		1. 毎日ある
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまにある
				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○		1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○		1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)	○		1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○		1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
		↓ 該当するものに○印をつけてください		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○		1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○		1. ほぼ全ての家族と
				2. 家族の2/3くらいと
				3. 家族の1/3くらいと
				4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○		1. ほぼ毎日のように
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまに
				4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○		1. 大いに増えている
				2. 少しずつ増えている
				3. あまり増えていない
				4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○		1. ほぼ全ての職員が
				2. 職員の2/3くらいが
				3. 職員の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○		1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○		1. ほぼ全ての家族等が
				2. 家族等の2/3くらいが
				3. 家族等の1/3くらいが
				4. ほとんどいない